

ぶどうに対する薬害や汚れ、果粉溶脱の注意事項

全般的な注意事項	新品種に対しては、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認する。 ボルドー液、石灰硫黄合剤等と混用できる農薬は少ない。 一般に、大豆大以降の散布では、果実に掛かれば、果粉溶脱のおそれがある。 樹勢の弱い場合には薬害を生じるおそれがある。
----------	--

区分	薬 剤 名	RAC コード	薬害や汚れ、果粉溶脱の注意事項
殺菌剤	トップジンM水和剤	1	幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生ずるおそれがあるので注意する。
	トップジンMペースト	1	萌芽後に使用すると生育遅延を生じるおそれがあるので、必ず萌芽前に使用する。
	ロブラルくん煙剤	2	葉焼け等の薬害を生じやすいので次の事項に注意する。①発煙は1カ所50g以下で行う。②天井と棚との間隔が30cm以下の場合、暖房機などの送風機を作動させ、煙の拡散を図る。③デラウエア、巨峰、ピオーネ以外の品種では薬害を生じやすいので必ず吊具を用いてくん煙する。④超早期加温栽培の場合や樹が軟弱に成長した場合にはとくに薬害を生じやすいので使用は避ける。
	ロブラル水和剤	2	果実肥大期以降の散布は、果実に汚染を生じるおそれがあるので避け、開花～幼果期までに使用する。ハウスなどの常溫煙霧として使用する場合は、巨峰以外の品種では薬害を生ずるおそれがあるので注意する。
	オーシャイン水和剤	3	果実肥大期(だいたい粒大)以降の散布で、散布後の薬剤の乾きが遅い場合、ノースレッド、ハニーシードレス、ハニーピーナス及び巨峰の果実表面にさび果を生ずるおそれがあるので、園地管理の徹底及び使用濃度を厳守する。無袋栽培で使用する場合は、果房に汚れが生じるので、果実肥大期中期以降の散布は注意する。
	オーシャインフロアブル	3	無袋栽培では果実肥大中期(大豆大)以降、有袋栽培では果実肥大中期(大豆大)から袋かけ前までの散布は、果粉の溶脱が生じることがあるので注意する。萌芽直後～新葉展開初期に高濃度で散布すると葉に薬害を生じるおそれがあるので使用濃度を厳守する。
	アフエットフロアブル	7	幼果期(小豆大)以降の散布は、果粉が溶脱するおそれがあるので使用を避ける。
	カンタスドライフロアブル	7	浸透性を高める効果のある展着剤や葉面液肥を加用すると、薬害が生じるおそれがあるので避ける。
	パレード15フロアブル	7	幼果期(小豆大)以降の散布は、果粉が溶脱するおそれがあるので使用を避ける。
	フルーツセイバー	7	幼果期(小豆大)以降の散布は、果粉が溶脱するおそれがあるので使用を避ける。
	アミスター10フロアブル	11	加温施設栽培では開花前の使用で葉に薬害(小褐点)を生じるおそれがあるので、落花後に使用する。無袋栽培は果実肥大中期(大豆大)以降、有袋栽培では果実肥大中期(大豆大)以降袋掛け前までの散布では果粉の溶脱が生じるおそれがあるので十分注意する。
	ストロビードライフロアブル	11	ロザリオビアンコでは葉に薬害を生じるので使用しない。巨峰及びデラウエアを除く品種には、新梢伸長期から開花直前までの散布は葉に薬害を生じる場合があるので注意する。落花20日以降袋掛け前までの散布は果粉溶脱や汚れを生じる場合があるので注意する。
	スクレアフロアブル	11	果粉の溶脱を生じるおそれがあるので注意する。
	セイビアーフロアブル20	12	幼果期(小豆大)以降の散布は、果粉の溶脱を生じるおそれがあるので、幼果期(小豆大)以降は注意して使用する。
	ランマンフロアブル	21	大豆大期から袋かけ前までの時期での使用は避ける。
	フロンサイドSC	29	使用時期を誤ると葉や果実に薬害が発生するおそれがあるので、使用時期を厳守すること。ネオマスカットは薬害を生じやすいので使用を避ける。本剤と他剤との混用は、薬害を生じやすいので十分注意する。
	ミギワ20フロアブル	52	果実肥大中期(大豆大)以降の散布は果粉の溶脱を生じるおそれがあるので注意する。
	インプレッション水和剤	BM2	収穫期近くの散布は果実に汚れを生じることがあるので使用時期に注意する。
	エコショット	BM2	果粉溶脱を生じさせるおそれがあるので、袋かけをしない生食用のブドウの収穫間際には使用を避ける。
	ボルドー液	M1	ロザリオビアンコに対しては、薬害が発生するおそれがあるため、使用しない。落花直後のボルドー液の散布は避ける。
	ICボルドー	M1	無袋栽培で使用する場合は果房に汚れを生じるおそれがあるので果実肥大期以降の散布は避ける。
	Zボルドー	M1	生育期散布の場合、薬害を生じる場合があるので留意し、過度の連用は避ける。果実肥大期以降の散布では果房の汚れを生じる場合があるので、無袋栽培ではこの時期以降(収穫まで)は使用しない。巨峰系に対しては葉および果実に薬害を生じるおそれがあるので使用しない。新梢、葉に対する薬害軽減のため、銅に弱い品種や薬害の出やすい時期に使用する場合は、必ず炭酸カルシウム水和剤を加用する。
	園芸ボルドー	M1	葉に薬害を生じるおそれがあるので過度の連用を避ける。また、果実に汚れが生じるおそれがあるので、着果期以降の散布には注意する。
	クプロシールド	M1	薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用することが望ましい。また、果房の汚れを生じるので、無袋状態での使用は注意する。
	キノンドー顆粒水和剤	M1	果実肥大期(あずき粒大)以降の散布では、さび果や果房の汚れを生じることがあるので、無袋栽培ではこの時期以降の散布は避ける。
	コサイド3000	M1	薬害を生じるおそれがあるので、必ず炭酸カルシウム水和剤を(80-100倍)加用する。果実肥大期以降の散布は、果房の汚れを生じるので、有袋栽培では袋かけ前の散布は避ける。また、無袋栽培ではこの時期以降収穫まで使用しない。
	ドキリンフロアブル	M1	果実肥大期(あずき粒大)以降の散布では、さび果や果房の汚れを生じることがあるので、無袋栽培ではこの時期以降の散布は避ける。
	ムッシュボルドーDF	M1	果房に薬害を生じるおそれがあるので、袋かけ前には使用しない。無袋栽培では収穫まで使用を避ける。袋かけ後あるいは無袋栽培の収穫後は葉に薬害を生じるおそれがあるので、銅に弱い品種や薬害の出やすい時期に使用する場合は、薬害発生軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用する。

区分	薬 剤 名	RAC コード	薬害や汚れ、果粉溶脱の注意事項
殺 菌 剤	トレノックスフロアブル	M3	幼果期～袋掛けまでの散布は、果房の汚れや果粉溶脱を生じるおそれがあるので十分注意する。
	オーソサイド水和剤80	M4	幼果期から袋掛けまでの散布は、果粉の溶脱や果実の汚染を生じることがあるので十分注意する。
	ベフラン液剤25	M7	ハウス栽培（特に加温ハウス栽培）では、果実に葉斑を生じるおそれがあるので散布は避ける。
	デランフロアブル	M9	新梢伸長期の散布は葉に葉害を生じるおそれがあるので注意する。
	アリエッティ水和剤	P7	幼果期から果粒肥大期の散布は、果粉の溶脱を引き起こしますので使用は避け、新梢伸長期から落花期までおよび袋掛け以降に使用する。
	(混)ゲッター水和剤	10・1	幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生ずるおそれがあるので注意する。
	(混)ホライズンドライフロアブル	11・27	無袋栽培は果実肥大中期（小豆大）以降、有袋栽培では果実肥大中期（小豆大）以降～袋かけ前までの散布では果粉の溶脱が生じることがあるので十分注意する。
	(混)ダイナモ顆粒水和剤	21・27	無袋栽培は果実肥大中期（だいず大）以降、有袋栽培は果実肥大中期（だいず大）以降袋かけ前までの散布では、果粉の溶脱が生じることがあるので十分注意する。
	(混)リドミルゴールドMZ	4・M3	幼果期（小豆大）以降に使用すると、果粉の溶脱や果実の汚染を生じることがあるので、品種や栽培形態によっては幼果期～袋掛け前の散布は避ける等十分注意する。
	(混)フォリオゴールド	4・M5	幼果期（小豆粒大）以降の散布は、果粉の溶脱、品種によっては果実に葉害を生じるおそれがあるので、落花直後までに使用する。
	(混)ザンプロDMフロアブル	40・45	果粉溶脱のおそれがあるので、大豆大期以降の散布を避ける。
	(混)フェスティバルC水和剤	40・M1	葉害を生ずるおそれがあるので炭酸カルシウム剤を加用すること。
	(混)ゾーバック エニベル 顆粒水和剤	49・M3	果実肥大中期（あずき大）以降の散布においては、果粉の溶脱が生じることがあるので十分注意する。
	(混)イデクリーン水和剤	M2・M1	葉に葉害を生じるおそれがあるので過度の連用を避ける。また、果実に汚れが生じるおそれがあるので、着果期以降の散布には注意する。
殺 虫 剤	(混)園芸ボルドー	M2・M1	連用散布により葉に葉害を生じるおそれがあるので注意する。また、果実に汚れが残るおそれがあるので、着果期以降の散布は注意する。巨峰系（巨峰、ピオーネ）に対しては、散布時期によっては葉及び果実に葉害を生じるおそれがあるので、袋かけ前などの散布には注意する。
	(混)アリエッティC水和剤	M4・P7	幼果期から果粒肥大期の散布は果実に葉害を生じやすいので、高濃度散布や重複散布、他剤との混用及び展着剤の加用は避ける。
	オリオン水和剤40	1A	無袋栽培に使用する場合、果房に汚れを生じるので、果実肥大中期以降の散布は避ける。
	ガットキラー乳剤	1B	休眠期（落葉後～萌芽前）に樹幹部及び主枝に十分散布する。萌芽後は新芽に葉害を生じるので必ず萌芽前に散布を終える。
	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	4A	幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用を避ける。
	ダントツ水溶剤	4A	袋かけ前までの幼果期に散布すると品種によっては果粉が溶脱するおそれがあるので注意する。
	ベストガード水溶剤	4A	袋掛け直前の散布は果粉溶脱のおそれがあるので避ける。
	モスピラン顆粒水溶剤	4A	幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用は避け、新梢伸長期から落花期及び袋かけ以降に使用する。
	トランスフォームフロアブル	4C	果実肥大期（大豆大）より後の散布においては、果粉の溶脱を生じることがあるので十分注意する。
	コロマイト水和剤	6	果実に汚れが生じるおそれがあるので注意する。
	コルト顆粒水和剤	9B	幼果期以降に使用する場合は、果粉の溶脱を生じるおそれがあるので注意する。
	バロックフロアブル	10B	幼果期以降での使用は、果粉溶脱を生じる場合があるので注意する。
	オマイト水和剤	12C	樹勢の弱っている園、干ばつ状態の園、梅雨期および曇天多雨の続いた後は使用を避ける。
	コテツフロアブル	13	結実期に使用する場合は、果実が小豆大になるまでに散布する（果粉溶脱）。
	バダンSG水溶剤	14	大粒種ぶどうには、樹勢の弱い場合には葉害を生ずるおそれがあるので使用しない。
	カネマイトフロアブル	20B	落花20日以降袋掛け前までの散布は果粉溶脱や汚れを生じることがあるので注意する。
	モベントフロアブル	23	品種「瀬戸ジャイアンツ」では新葉に褐変を生じることがあるので注意する。
	エコマイト顆粒水和剤	23	果実に汚れが生じるおそれがあるので注意する。
	ダニサラバフロアブル	25A	無袋栽培においては果粉溶脱のおそれがあるため果実肥大期（大豆粒大）以降の散布は避ける。
	スターマイトフロアブル	25A	無袋栽培は果実肥大中期（あずき大）以降、有袋栽培は果実肥大中期（あずき大）以降袋かけ前までの散布では、果粉の溶脱が生じることがあるので十分注意する。
	エクシレルSE	28	果粉溶脱及び葉斑を生じるおそれがあるので、袋かけ以降に使用する。また、無袋栽培（傘掛けを含む）には使用しない。
	フェニックス顆粒水和剤 フェニックスフロアブル	28	幼果期から果粒肥大期に使用する場合は、果粉の溶脱が生じるおそれがあるので注意する。
	グレーシアフロアブル	30	無袋栽培は果実肥大中期（あずき大）以降、有袋栽培は果実肥大中期（あずき大）以降袋かけ前までの散布では、果粉の溶脱が生じることがあるので十分注意する。
	石灰硫黄合剤	UN	発芽後の散布では葉害を生じやすいので、濃度、樹勢、気象等の諸条件に注意する。
	(混)トラサイドA乳剤	1B・1B	休眠期に使用する場合、使用時期が遅れると新芽、新葉に葉害を生じるおそれがあるので、時期を失しないよう注意する。
	(混)ラビキラー乳剤	1B・1B	使用時期が遅れると新芽、新葉に葉害を生じるおそれがあるので、必ず休眠期中に散布する。